

イギリス北部～南部のバス 10 日間の旅

～ 結婚 50 年の記念旅行 ～

江戸ソバリエ・ルシック小林照男
(寺方蕎麦研究会、美浜ソバ楽会)

6月12日で結婚50年目を迎えるのを機に、久しぶりに夫婦で海外旅行に行くことにしました。当初は結婚記念日を出発日にする予定でしたが蕎麦会などで仲間に迷惑のかからない日程(2015.6.28～7.7)にしました。

イギリスを選んだのは、わが家では私が25年ほど前に贅沢な観光旅行を体験しており、また娘夫妻は10数年前に一か月程ホームステイをしたりしていたので、今回は家内が行ったことのない所ということにしました。

それに、私は仕事などで行った所(日本各地や外国)は基本的に家内を案内していますが、イギリスだけは機会が持てなかったため、敢えて(イギリスのツアーは高いけど……)選びました。

イギリスといっても、それなりに広い国ですが、とくに私も行ったことがなくて憧れていた都市エディンバラが外せませんでした。ということで、イギリス4国(地方)の内、スコットランド～ウエールズ～イングランドと、北から南に3地方を巡るツアーになりました。

エディンバラの赤茶色の古い街並みは憧れた通りの素晴らしさで、遠くから眺める程、美しく綺麗に見え感動の眺めでした。バスで一時間程の所にあるセントアンドリュース・オールドコース(ゴルフ場)に案内され、数週間後に開催される大会の準備中のコースを「そのままの靴」で歩きました。時間の関係で1番ホールと18番ホールしか歩けなかったのは心残りでしたが、帰国後にテレビで見る大会が楽しみになりました。



[*セントアンドリュースには古い寺院跡が残っていて墓地の奥にある聖人ゴルファートム・モリスの墓参りができました。]

この日は海辺にいながら風もなくして好天に恵まれ、日中の気温はスコットランドで23°C、ロンドンで28°Cという温かさの中で、シャツ姿で歩きました。テレビで見ていた寒くて強風のコースに、スコットランドの気候の厳しさを感じていましたので、出発に際し念のため準備した防風・防寒着(ゴアテックス)は全く不要でした。

エディンバラのシャーロット広場の北側にあります修復されたジョージ王朝時代の「ジョージアン・ハウス」を訪ねました。

ここでは18世紀のエディンバラ地方の富裕層の暮らしぶりが見られます。豪華な応接間とダイニングルームに、地下は厨房になっています。階段を下りますと、当時の食器棚やワインセラーと、鍋やフライパンなどが置いてあり、使用人たちが寝起きした狭い寝室も残っています。

なかでも私たち江戸ソバリエにとって興味深いのは【小麦粉用の搗き臼】です。日本の杵と臼に比べるとずいぶんスマートです。それに杵に当たる搗き棒はけっこう長く2mはあるようです。説明員の話によりますと、「毎日、使用人が小麦を搗いて粉にしていた」ということです。日本では「搗く」と表現しますが、この棒を見ていると「突く」と言った方がふさわしいような気がします。見ただけでは、材質が石なのか、木なのかも判断できません。触ってみたいのですが、そうもいかないでしょう。やむなく、「粉に関心があるから」と言って写真だけ撮らせてもらいました。



〔小麦用の搗き臼(突き臼?)〕

イギリスは「ナショナル・トラスト」運動が盛んで古き良き家屋や町や村の自然環境を守っていて、イングランド北部の湖水地方などの古民家や自然も豊かに残されていて、その素晴らしさに感動しました。イギリスには高い山がなく(1500m程度の高地(山)はあるそうです)、多くが丘陵地程度でしたが丘陵には石が多く、高木は余り見られず、多くが牧草地になっていて、小麦畑は各所で見ましたが、野菜畑は全く見られなかったため、緑豊かな野菜の少ない食事情が理解できました。

イギリスの水は石灰分の多い**硬水**です。高い山がなく、余り長い年月を経ていないにも関わらず硬水なのは石灰分を含んだ石の材質に依るものでしょうか？ 兎も角、江戸ツバリエ寺方蕎麦研究会での「肉食と硬水」の仮説に合っています。しかし、殆どのレストランで水を無料で出してくれたのは、他のヨーロッパ諸国と違っていません。コンビニやスーパーで売っている水が何処の国のものか？ 今にして確認を怠った事を残念に思います。25年前に一番良い印象のあったストラットホード・アポンエイボンの水(川)は多少汚れていましたが、殆どが当時の良い印象の俣でイギリスを一層良い国、素敵な町だと改めて感じることができました。イギリスの(公営の)美術館・博物館は無料でした。私は美術には余り興味を持っていませんが、それでもエディンバラではレオナルド・ダビンチの絵画鑑賞。ロンドンでは大英博物館で説明を聞きながら古代遺跡を見回りましたが「どうやって持ち込んだ？」が一番の感想でした。無料とはいえ、透明な寄付金箱には20ポンド紙幣も、私は5ポンドの日本語の説明用トランシーバーを借りることでご容赦願いました。

3年ぶりの海外旅行でしたが、家内が往路の機内食(日航)？で胃腸に不具合が生じ、胃腸薬などでは回復せず、エディンバラのホテルに往診して貰いましたが抗生薬は投与されず、指定の薬を飲むことで回復しました。病院に行くと半日は待たされるとのアドバイスで往診してもらい、旅行保険を初めて使いましたが海外旅行保険の必要性を実感し、ベテラン添乗員の適切なアドバイスに感謝・感謝でした。イギリスに限らずビスケットなどの菓子類も日本の物が一番口に合っているように感じるのは寄る年波だけではない様に思いますが……、スーパーで買った一番安価なビスケットが一番口に合ったのでお土産に。

私は、海外旅行の際には「その国」の料理しか食べないようにしていました。今回は食事が殆ど付いていたのですが、疲れの出た最終日の昼食はホテル近くの韓国料理店で米飯を食べました。イギリス料理は美味しいのですが、疲れた時には体に素直な食事で良いと改めた次第です。

以上